

農事組合法人波志江北部の取り組みについて

群馬県中部農業事務所
伊勢崎地域農業課
森 洋輔

1. 波志江北部の取り組み

(1)所在地 群馬県伊勢崎市



麦栽培に適した地域

(R7)JA佐波伊勢崎 麦類生産量:約7350t(検査実績)
作付け面積:約1540ha

関東ローム層の肥沃な土地
＋
からっ風の乾いた気候

1. 波志江北部の取り組み

(2) 法人の概要

- ・経営面積(R7年度): 水稻50ha、小麦53.5ha、ネギ、キャベツ等
- ・代表: 石田 喜代治氏
- ・構成員: 24名
- ・従業員: 3名(法人が雇用)
うちメインオペレーター4名
- ・他 アルバイト(タイミー等)
研修生1名



石田代表

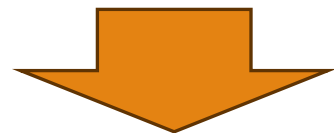
1. 波志江北部の取り組み

(3) 過去の経緯

2006年7月 波志江北部営農組合設立

2010年2月 農事組合法人波志江北部設立

2021年2月 石田氏 代表理事組合長に就任



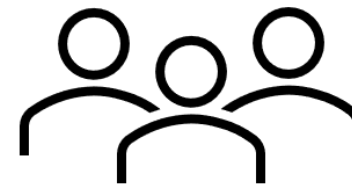
就任当時、構成員の高齢化により管理が行き届かず、
小麦単収が300kg代(米も5俵程度)まで落ち込む。
⇒法人の解散も検討。

1. 波志江北部の取り組み

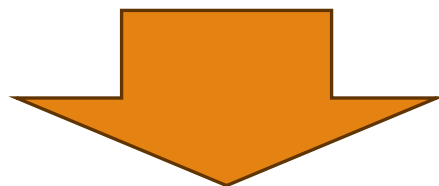
(3) 過去の経緯

そんな時...

石田氏の息子と同級生が従業員として加わる



法人が生まれ変わる
契機に！



従業員の生活のため、反収向上を目指す！

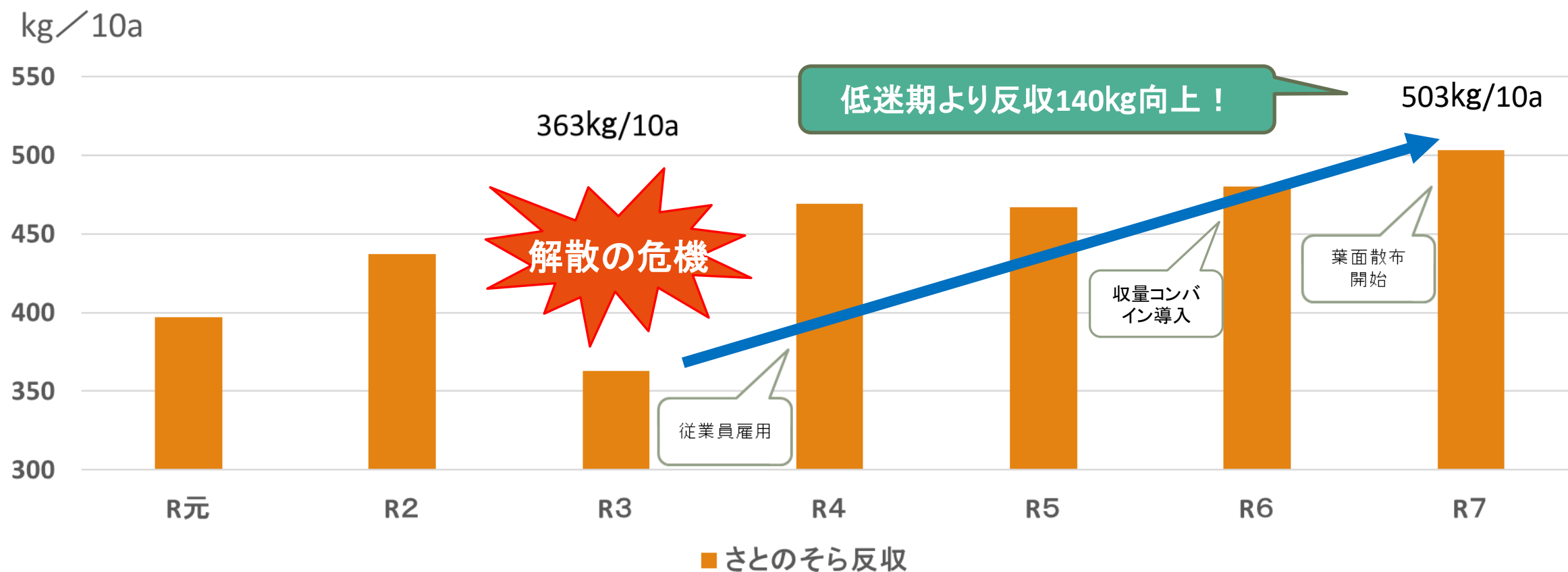
(意識改革)



1. 波志江北部の取り組み

(3) 過去の経緯

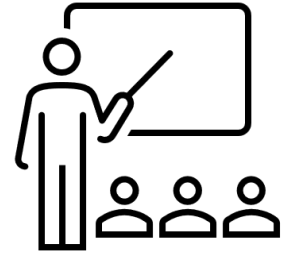
栽培管理を見直し、R7年度「さとのそら」反収500kgを達成（過去最高反収）



1. 波志江北部の取り組み

(4) 現在の栽培体系

波志江北部の考え方



- ・肥料・改良材等はほ場ごとに適量を与える！
- ・基本技術の励行！ 必要な管理は適期に徹底する！
- ・人手は機械でカバーする！ 人を増やすのは最後！
- ・麦の売り上げで米の経費も賄う！

1. 波志江北部の取り組み

(4) 現在の栽培体系

○耕種概要

- ・耕起：施肥前に1回で出来るだけ碎土

- ・基肥、土壌改良材：セルフブレンド

(さとのそら一発＋農力アップ 1:1)

120kg/10a(内 さとのそら一発 60kg/10a)

(基肥N＋追肥N＝6kg/10a＋6kg/10a)



一度に改良材と肥料が撒けるので省力的

1. 波志江北部の取り組み

(4) 現在の栽培体系

○耕種概要

・播種

播種量: 10kg/10a

種子消毒: ベンレートTコート

播種期: 11/15以降～(1週間程度)

(その年の気温によって開始を遅らせる)



専用種子消毒装置



播種はロータリーシーダー2台体制

1. 波志江北部の取り組み

(4) 現在の栽培体系

○耕種概要

・除草剤

土壌処理剤:リベレーター(播種直後)

※雑草の多いところは麦3葉期頃にボクサーを体系処理

・麦踏:1～2月 2回(暖冬年では1～2回追加)

※稈長の長い「ゆめかおり」は茎立期頃に2回目



1. 波志江北部の取り組み

(4) 現在の栽培体系

○耕種概要

- ・追肥: 4月下旬～5月

赤カビ病防除と同時に液肥を葉面散布

※成熟期が遅れるため、窒素1kg程度に抑える

- ・その他

基本的に堆肥は入れていないが、麦わら、稲わらを毎年すき込んでいるため土壌物理性は良好。(麦＋稲で800kg～1t程度)



R7年産から実施
単収向上に寄与

1. 波志江北部の取り組み

(4) 現在の栽培体系

○施肥設計



収量コンバインのデータを基に、反収8俵を下回ったほ場は次作で**基肥+5kg追加**

車速連動型ブロードキャストで設定した量を的確に散布

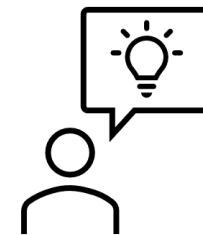


Z-GISで各圃場の収量、施肥量を管理

1. 波志江北部の取り組み

(4) 現在の栽培体系

なぜこの方法？



○施肥設計

- ・収量メッシュマップ＋可変施肥機等の組み合わせもあるが、コストがかかりすぎる。
- ・施肥設計は単純に考えた方が管理がしやすい。
- ・ほ場ごとに変えるのは手間のように思えるが、確実に単収向上とコスト削減につながる。
- ・今ある機械で効率的に単収を上げるには、理にかなったやり方。

1. 波志江北部の取り組み

(5) 今後の展望

- ・次の世代が営農を続けられるよう、機械・施設整備を開始。
- ・地域の水田農業を維持できるように、限られた人員で効率的な生産を目指す。



2. 伊勢崎地域の取り組み

(1) JA佐波伊勢崎・佐波伊勢崎法人連絡協議会

「さとのそら」多収穫共励会の開催
(反収部門、伸び率部門)



R2年から開催。管内26集落営農法人を対象に、「さとのそら」単収上位を表彰。モチベーション向上と地域反収の向上につながっている。

⇒R7年度は26法人中12法人以上が反収500kgを超える。

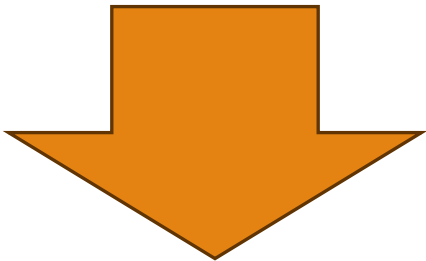
(1位は反収577kg、26法人平均反収472kg)

2. 伊勢崎地域の取り組み

(2) 伊勢崎地域農業課(普及組織)

・「ゆめかおり」タンパク質含量調査

カントリーエレベーター・ライスセンター毎の自主検査サンプルを調査し、JA、生産者へフィードバック



(農業技術センターと連携)

地域差の確認、施肥設計の目安

R7 「ゆめかおり」荷受施設タンパク質等調査票					(参考)	近赤		近赤
No.	地域	区分	生産者	田畑	R6タンパク質%	タンパク質%		水分%
41	伊勢崎北	法人				12.5		12.1
42	伊勢崎北	法人				12.6		13.3
43	伊勢崎北	法人				14.1		12.0
44	伊勢崎北	法人				12.4		10.3
45	伊勢崎北	法人				15.2		11.9
46	伊勢崎北	法人				11.8		11.4
47	伊勢崎北	法人				14.0		11.7
平均			全体		11.8	12.0	↗	11.8
			玉村		10.6	11.5	↗⑤	12.1
			伊勢崎南部		11.0	11.3	↗⑥	9.6
			伊勢崎北部		13.8	13.6	↘①	11.8
			境		11.9	11.8	↘④	13.0
			東		12.7	12.5	↘②	13.4
			赤堀		12.1	12.1	→③	12.4
			認定		12.4	12.1	↘	12.5
			法人		11.3	12.0	↗	11.3
※タンパク質					基準値	11.5以上14.0%以下		
(硬質小麦)					許容値	10.0%以上15.5%以下		

2. 伊勢崎地域の取り組み

(2) 伊勢崎地域農業課(普及組織)

- ・講習会の実施

(9～10月)R8年産講習会(管内5地区)

(9月)麦難防除雑草対策

管内で問題となっているイタリアンライグラス等の防除に特化した講習会を開催。普段講習会に参加しない生産者も大勢参加。

- ・麦作情報の提供(4～6月、1～3月)

本年産の生育ステージを情報提供。適期管理の目安。



2. 伊勢崎地域の取り組み

(2) 伊勢崎地域農業課(普及組織)

・倒伏軽減実証ほ(R6～)

稈長の長い「ゆめかおり」では、高タンパク化を目指して施肥量を多くすると倒伏が多発する。茎立期以降の踏圧における稈長抑制効果と収量への影響を調査。その他、なまぐさ黒穂病対策も検討中。



3. 最後に

麦が作れるほ場では作った方が得！

今後も生産者・JA・市町村・普及が連携して二毛作麦産地を
盛り上げていきます！

ご清聴ありがとうございました！